



公共施設駐車場の 有料化から一年



市内5カ所の公共施設附帯駐車場の有料化は、2億円の初期投資を掛けての実施に、市民から反対の声が多く挙がりました。しかし、市は受益者負担・負担の公平性・財源の確保を掲げて2022年5月より実施しました。1年後の経過報告が9月議会でありました。

5カ所の公共施設駐車場の利用台数は、当初見込み71万5千台に対し（延べ）78万3千台と大幅に増えています。しかし利用料は、当初見込み1・1億円に対して8千万円と3千万円のマイナスとなりました。1時間以内の無料時間帯の利用者が全体の6割近くを占めていたことが分かりました。駐車料金が発生しない様に、活動を中断して再入庫したり、子どもたちのスポーツや学びの場への付き添いは、見学をしないで送迎のみにしたりと工夫や努力をしています。

市内の大型公共施設は、交通アクセスが整っていないため、車が必要不可欠です。公共施設は、市民のための文化やスポーツ、コミュニティの場です。子育て中から高齢者まで誰もが安心して利用できるように求められます。

（斎藤）

「マイナ保険証」について考える

政府が普及を進めるマイナンバーカードに健康保険証を紐づけたことにより、別人の情報が誤登録されるなど多くの問題が続出しています。にもかかわらず、2024年の秋に健康保険証を廃止するという方針を崩していません。

海老名ネットは、海老名市議会から国へ「従来の健康保険証の存続を求める国への意見書の提出を要望する陳情」を8月21日（月）に市議会へ提出し、陳情書の内容を理解してもらい賛同を得るために議会各会派の方々に説明に回りました。

しかし、保守系の大会派から「マイナ保険証への理解促進と従来型健康保険証原則廃止への不安払拭を求める意見書」が提出され、9月29日の議会最終日に賛成多数で可決という結果になりました。この意見書は私たちが考えている事とは違う方向を向いているようで残念です。マイナンバーカードは任意であるにもかかわらず健康保険証との一体化で強制力が強まっています。

個人的には、マイナポイントが付くという甘い誘いについて乗ってマイナンバーカードを作ったのはいいけれど、税金・公金・社会保障・医療などに関する情報がわかるというこのカードを使う気になれないでいます。

（高林）



ぬち たから 命どう宝

（沖縄語で命こそ宝）

10月7日パレスチナとイスラエルが戦争状態に陥った。2022年2月24日に始まったロシアとウク

ライナの戦争は未だ停戦の糸口も見えず続いている。

こうした世界情勢を国は安保環境の厳しさと捉え、軍事力の強化・防衛費の拡大を決定した。中国の台湾攻撃を想定した南西諸島の軍備増強が急ピッチで進められ、2016年与那国島に陸上自衛隊の沿岸監視隊の新設を皮切りに、石垣島、宮古島、沖縄本島、奄美大島まで自衛隊の駐屯地やミサイル基地も建設され、日米合同軍事演習が強化されている。

軍事基地は攻撃目標とされる危険性に曝される。それは、太平洋戦争で激戦地となり、本島の捨て石となった78年前の沖縄の再現になるのでは？ 沖縄の現状を映像化している三上智恵映画監督は本篇完成前にスピノフの「沖縄、再び戦場へ」の上映会を本土各地へ呼びかけた。有志で7月28日に上映会を開催し、のどかな南の島々の公道を戦車が走る、民家の近くに弾薬庫が出来るといった現状を知った。10月22日朗読会を開き、与那国島の当時小1年生安里有生作「へいわってすてきだね」の詩の絵本を中学1年生が、丸木俊作「ひろしまのピカ」を女優の岡崎弥保さんが読まれた。

戦争になったらどうなるのか？ 史実に学び、現状に真摯に向き合い、未来を考える。防衛力強化より対話による解決を進めることが未来への道。戦争が現実味を帯びてきた今こそ、「命こそ宝」と一人ひとりがしっかりと考えることが必要だ。（西田）



「希望の給食」 上映会を通して考える

10/18(水)ピナレッジにて「希望の給食-食と農がつむぐ自治と民主主義」上映会を開催しました。

ゲストトークは海老名市のオーガニック農家「私農高唱」小口さんで、参加者にはオーガニック野菜のお土産付きでした。

災害ボランティアの経験から、災害を減らすためのアプローチとして、土作りによるCO2削減を目指しオーガニック農業を選び、今を生きる人には安全でおいしい食を、100年後生きる人には災害の少ない社会を目指し農業をされているというお話に感銘を受けました。

映画は、給食を通して世の中のいろいろな問題提起をしており、民営化に向かう公共サービスのあり方や、地域における食と農のつながり、持続可能な農業としてのオーガニックの重要性、食への権利の保障を訴えていました。

海老名市では給食の地産地消率は14%と低いので、もっと地元の農家さんの野菜を取り入れてほしいし、全国で123以上の自治体がオーガニック食材を取り入れたオーガニック給食を実施しているので、1品目数%からでいいので、オーガニック野菜を取り入れてほしいと願っています。

今後もたくさんの方に共感して頂けるよう活動していきたいと思います。

(えびなみんなにやさしいごはんプロジェクト 樋渡)

報告

学習会2023年7月22日(土)

「誰も断らない相談支援 ～座間市の実践」に参加して

《講師》座間市地域福祉課 係長 武藤清哉さん
W.Co協会 副理事長 岡田百合子さん

国の制度に則って始まった座間市の生活困窮者の自立支援ですが、既存の制度や仕組みに当てはめるのではなく、「断らない相談支援」を掲げて相談へのハードルを下げ、困りごとの話をしっかり聞くこと、そこから始めたことに感心しました。また「生活困窮者支援」を福祉だけの問題ではなく、市役所へ来る方は困りごとを抱えている可能性があると考え、市役所全体で市民の困りごとに「きづき」、適切な支援へ「つなぐ」ための仕組みを検討中、と進化し続けていることも素晴らしいと思いました。

また共同企業体として就労準備支援事業を「^{*}はたらつく・ざま」が座間市から受託したことで非営利・協同の連携による困窮者支援がまちの中で具体的にみえることが本当に素敵だと思いました。海老名市に於いても、当事者に寄り添い困りごとの背景まで理解した支援体制が望まれます。(市川)

*「生活クラブ生協」「NPO法人ワーカーズコレクティブ協会」「さがみ生活クラブ生協」の3者による共同企業体



資源化センターの見学

10月18日、大谷南5丁目にある海老名市資源化センターの見学に行きました。

2019年11月リニューアルオープンし、新施設の処理能力は2倍になり、新施設の受け入れ資源物は屋内保管となり、選別施設には空調設備が設置され労働環境は改善されていました。

缶は建築材料・アルミ缶などに、びんは一部は路盤材に、ペットボトルは衣類・文具・食品パックに、容器包装プラスチックはプラスチック製品や補助燃料に生まれ変わるそうです。

缶、びん、ペットボトル、容器包装プラスチックのすべてのブースに手選別コンベヤがあり、異物除去の選別をしています。かなり速く進むコンベヤに合わせて異物を取り除く作業は大変な作業です。市民が排出する時異物を混入しない様に気を付けたいです。

また分別、資源化、再利用は環境への負荷を軽減し地球温暖化を遅らせることに繋がると感じました。

(環境部会 橋)



ペットボトルの手選別コンベヤの異物除去作業

お話 タイム

▶1月25日(木) 10:00～12:00 国分北集会所

お話タイムは、地域の皆さんと暮らしの中で気になること等を語り合う場です。お声掛けいただければ、どこへでも伺います。

問い合わせ先：090-3866-1432 海老名ネット

編集後記 新しい趣味を見つけた。今までと違う世界が開けそう！と、喜んでられない世の中。子ども達がまた犠牲になっている。ウクライナに続いてガザ。子ども達の幸せを願っているが、今どうにかしたい!!! 話は戻るが、楽しいのは新しい趣味そのものより、ステキな人達と知り合いになれたこと!! (神崎)

*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。